

日新

苟日新 まこと ひ あら 苟に日に新たに  
 日日新 ひ び あら 日々新たに  
 又日新 また ひ あら 又日に新たなり  
 出典 「大学」

日新地区だより 49号



「ゆめ・にっしん」は、平成18年2月創刊。「日々に新たに」ゆめある日新まちづくりの一翼を担い、地区文化の向上を願って今日に至っています。

発行：魅力あるまちづくり日新 広報部会  
 福井市文京5丁目1-8 日新公民館  
 発行日：平成31年(2019年)3月14日

## 高齢化で役職担えない・・・自治会解散 福井県内初のケース

1月12日付けの福井新聞に上記の見出しが掲載されました。ここ日新地区の乾徳10町内会の話であります。これをご覧になった日新地区に衝撃が走った事は言うまでもありません。早速「前乾徳10町内会」の方々に聞きに行きました。

### 経過は

3年ほど前から町内会長のなり手がないと悩んでいらしたが、当時は10戸あり輪番制で会長を決めていました。その後、現在までに廃墟になったのが4戸あり、去年は6戸になりました。また、その中で年齢的に町内会長候補は2戸だけになり、一年おきに町内会長をしなければならなくなる状態です。町内会長だけでなく福祉委員・防災委員を選出するには益々困難になってきたようです。

そこで合併の話を残った6戸で話し合ったが、全戸の意見で「吸収されるようでいやである。また、グループ化にしても1町内からは会長などを選出しなければならない仕組みであるようで無理である。」となり、町内会の総意で解散を決められました。このようなことから昨年11月中旬に市役所へ相談（合併を勧められる）、12月1日に廃止届を出す書類不備で再提出、今年の1月4日に届出が受理されました。



## 乾徳10町内会の解散について思う事

日新自治連合会会長 堀田 啓次

1月12日の福井新聞に「乾徳10自治会解散」の記事には驚かされました。

解散を決意する3年程前から合併などを含め色々模索した様ですが、なかなかうまくいかなかったようです。

平成の30年間で福井の人口は47,000人減少、なんと月に130人のペースで減っていることになります。長崎38万人、青森28万人の減少から比べるとそんなに多くない数字です。私が町内会長の1~2年の間に、戸数が減ってきているのはわかっていたつもりですが、いきなり現実を突きつけられました。乾徳地区はその他の日新地区3地区と比べて、自治会20世帯以下の自治会が9もあります。これらは今後10~20年位の間には消滅する予備軍であります。私の姉が木田地区に住んでいますが自治会は9世帯であります。乾徳地区だけでなく福井市の（特に旧市内）いたる所で今後このようなことが起きることと思います。

乾徳には過去に乾徳公園・乾徳新1・乾徳東と合併に成功した自治会があります。今こそ、これらを見習って乾徳地区の再編成が必要ではないかと思えます。行政に間に入って20世帯を切った自治会に合併を提案してもらうことです。自治会費、財産等の問題をクリアするのはなかなか難しいものですが、乾徳公園が採用したグループ化が一つの指針であるでしょう。グループ化とは会計と会費は従来の自治会で運営して、活動はグループ単位で行動する事で難題をクリアすることが出来るであります。

私の個人的な案ですが、乾徳4ブロック4自治会として全体で16自治会にするのはどうでしょうか？4ブロックごとに会長・副会長・会計・庶務を年ごとに一人選出し持ち回りにすれば負担がかるかと思えます。

全自治会の意見は、考えは、どうなのだろうか？ 真剣に考える時期に来ていると思えます。



## 福井市まち未来創造室から

自治会の合併は自治会の組織地盤の強化を目的としております。過去の日新地区の合併はグループ化という形態をとり、乾徳公園自治会、乾徳新1自治会、乾徳東自治会の3つが新しく生まれました。いずれもグループ化前の各自治会の世帯数が少なくグループ化後は40以上の世帯の構成になりました。ここで、合併とグループ化の違いを下記の表で表させていただきます。

	合 併	グ ル ー プ 化
定 義	2つ以上の自治会の全部若しくは一部をもって自治会を置き、又は他の自治会の区域の全部若しくは一部を他の自治会に編入すること	隣接する複数の自治会が、その区域の地域活動を一体的に行っていることが認められ、かつ、当該区域の行政嘱託員を1名とするもの
形 態	1自治会 自治会長1名 行政嘱託員1名 会計：単独 運営活動：1自治会の運営・活動	行政嘱託員の業務範囲は1自治会 自治会長（班長）複数名 行政嘱託員1名 会計：複数 運営・活動：グループ+自治会独自
課 題	会計の取り扱い 財産管理	行政嘱託員の選任 グループ活動・活動の基準
メ リ ッ ト	内部的にも対外的にも1自治会となるため、円滑な運営・活動を行える	コミュニティ活動の維持・活性化を図ることができる
デ メ リ ッ ト	住民相互の融和が図りにくい 自治会の範囲が拡大する 自治会に対する補助金が減少	一部の運営・活動が複雑化する

今回の乾徳10においては1月4日に解散を受理しましたが、災害時などにおける安否確認などのため、隣接の自治会とのグループ化を進めるよう各世帯に対して話していくつもりです。



## 底喰川探訪

底喰川の大掃除はいつから始まったのかご存知ですか？「ゆめにしん24号・25号」によると「平成10年7月26日 第1回クリーンアップ大作戦として実施され毎年3回の恒例行事に定着した」と書かれていました。当時の様子の記事を書かれたのは元日新公民館館長の西高義氏です。残念ながら昨年12月7日に86歳で亡くなりました。ご冥福をお祈りします。

そして「ゆめ・にしん42号」の「ミソハギ花まつり」の記事には清掃が始まって20年目の節目に合わせて29年7月30日に第1回花まつりを開催したと阪井一彦氏が書いています。

### 底喰川 その11-底喰川清掃はこうして始まった-

以前、この15号「底喰川その2 -ウオークで底喰川を見る-」で、あまりにも汚い底喰川。道路を歩いても臭う底喰川と記した。

当時、底喰川は乾徳橋のところまで“川幅広く”改修されていたが、その上手は未改修で川幅は狭く流れは速かった。上手で捨てられた多くのポイ捨てごみは、流れがゆるくなった乾徳橋下手の底の浅い川中に運び込まれて、それが長い年月を経てやがて汚泥化していった。そうしていたところに“中洲”も造った。中洲はいかんともしがたいが、ポイ捨てごみの回収はわれわれで出来る、と「底喰川と美しい地域づくり」の1事業「底喰川クリーンアップ大作戦」になった。そしてこの活動は区の方で、毎年3回、恒例事業に発展定着した。(西)



### 底喰川その12-底喰川清掃・クリーンアップ大作戦-

ふれあいウオークを体験したから、源流を訪ねたから、或はまた館内学習をしたからって底喰川はきれいにはならない。

平成10年7月26日、初めての大清掃。当日は80余名の参加者であった。きたない臭う川の中に入っての活動であった。粗大ゴミが多く、またその多くが水面下の川底に埋もれていて何人がかかってもなかなか、という状況であった。このことは引き揚げられた、8畳ほどの大きさの絨毯とか、ドラム缶、アルミの窓枠、アルミの梯子、古タイヤ、自転車、ビニールパイプ等々が物語る。福井土木事務所援助の2トン積みレッカー車の威力は大でした。

いっぽう、ビニール袋に入ったポイ捨てごみは川底に積もりやがて袋は破れ悪臭を放つ。作業を終えて上がったときには、濡れた作業衣に悪臭が沁みこみ近寄れない程であった。(西)



## 学校の役割とは

藤島中学校長 高柳 浩樹



学校は「生徒たちが社会に出たときに、きちんと生きていける力をつけるための場所」と考えています。そのために、各教科の学習があり、学級活動や生徒会活動・部活動等がおこなわれています。ただ、社会で生きていく力を確実につけるためには、学校での学習・経験だけではやや物足りないものがあります。そこで大事なのが、学校外で、しかも教員以外の人から学ぶことであると考えています。そういう意味で、生徒たちが日新公民館をはじめ地域の中で様々な活動をさせていただいていることに大変感謝しております。

主なものとして、区民体育大会・ミソハギ花まつり・児童館・社会貢献活動（清掃活動）・公民館まつりでのお手伝いや発表等がありました。これらの活動に参加するたびに生徒たちは1回り大きくなっていきました。ありがとうございました。ゴール目標に近づくためには、学校・保護者・地域のさらなる信頼関係と連携が大切です。



その起点となれるよう、職員一同力を合わせて取組を進めていきます。

## 街で見かけたシール

犬を呼ぶそうです。何故「天然記念物」とついているのかを調べてみると日本犬（大きく分けて六種類）の純粋の血統の

飼い主は息子の渡辺俊政です。」と淡々と思い出すように話していただきました。生きていく間に取材に行けなかったことが心残りです。

一月二日に亡くなりました。渡辺さんは「北海道の犬を飼っていました。でも、昨年の十月九日（才）生きていました。また、ソフトバンクのCMに出ている子と近い血筋でした。」



乾徳一丁目の渡辺さんの家の表札の横に「天然記念物北海道犬協会」と書かれたシールが貼られていました。これはいったい何だろ・・・

### 天然記念物北海道犬協会

これはなあに？



最近、電柱最上部にテレビアンテナの土台のようなアルミパイプで組んだ四角錐が付いており、その上部から細い線で電柱間を繋いでいます。

これはいったい何でしょう？

北陸電力福井支店配電保守課の川尻さんにお聞きしたところ「配電設備の避雷針的な役目をするもので、電柱はもとより近隣の家への直撃雷を防ぐものであります。配電事故停電の原因のうち雷害はたいへん多く、従来は電柱一本一本をアースしてしま



ましたが、電柱間を繋ぐことで直撃電流を分流させることができより、安全になります。この電柱間を繋いだ線を架空地線と言います。」と答えていただきました。一度、電柱を見上げてください。ただし、足元には十分注意してください。



リュウタロウ君

環境部会は、日新地区の中心にある公民館と底喰川、ここを中心とした環境美化を推進してゆくまちづくり活動を行っています。昨今、マイクロプラスチック(川など環境中に拡散した大きさが1mmないしは5mm以下の微小なプラスチック粒子)などのゴミが大きな問題となっています。人は美しいものに心を動かされるものです。清掃や花植えを行い岡山県の倉敷美観地区の様な理想の世界を目指しています。住人一人一人が小さくてよいから行動を起こすことにより、美しい街が保てるものと思っています。今年は国体のプランター花、ミソハギの管理と増殖、安心して通れるコミュニティ道路の保持を行いました。川工事と気象変化で環境は日々変化し、ゴミはすぐ後から復活していきます。もうこれで良いということはありません。今年も諦めることなくやり続ける事を求められています。皆様の絶大なるご協力をお願いいたします。



倉敷の美観地区

平成の最後の年に当たりコミュニティバス運行協議会も気持ち新たに前向きに取り組んでいきたいと思えます。昨年8月より事業内容の一部の改正をし、今から6年間の経過をみることになります。目的は「さんさんバス」の運行事業が長期的に安定的に進んでいく為であります。

右記が昨年8月より(6ヶ月間)の成果であります。この経過についてはいろいろと弊害がありました。好実績にて6ヶ月間を終えることができました。このたびは今回の成果、政策内容をも含めて、行政より非常に高い評価を頂きました。いま、少子高齢化が進んでいる状況の中で、団塊の世代である人たちもまもなく後期高齢者に達します。

現在は日新地区には約800名に近い75才以上の方々がおられますが、近い将来には約1,000名になると思われれます。私達もその時の為に交通弱者と言われる人達に対しては最大限の活動後押しの出来る組織体制の確立に積極的に取り組んでいきたいと部会一同が努力を致します。どうか今後とも宜しくお願いいたします

〔参考〕 H30,8,1～H31,1,31

割当基準値	3,450名
乗車実績	3,790名 +340名(109.8%)
月次平均実績	631名 (計画600名 20日稼働)
基準割当	575名
6ヶ月稼働日数	115日
月次平均稼働	19日

※年間9,000名→7,200名 月次750名→600名

広報部会は今年も4回の地区広報誌「ゆめ・にっしん」の発行と年1回の講演会の企画、運営・実行を行いました。下記に各号の内容をまとめました。また、講演会では「カザフスタンの民謡と語り」として、コンサートとカザフスタンの楽器などを紹介していただきました。参加した方々は「大変良かった。多くの子供達にも聞かせたかった。」と言われていました。今後とも宜しくお願いいたします。

46号	地域バスの2次本格運行承認、今昔の底喰川、藤島中学校の様子、第2回ミソハギ花まつり成功のために、日新区民体育大会、etc	コンサートとカザフスタンの楽器などを紹介していただきました。参加した方々は「大変良かった。多くの子供達にも聞かせたかった。」と言われていました。今後とも宜しくお願いいたします。
47号	ミソハギ花まつり、児童館の様子、国体に向けて、町の文化人敬老会、日新の防災、カザフスタンの民謡と語り、etc	
48号	昨年の豪雪からの教訓を生かそう、日新地区の防犯、日新小学校の今福商のALT、底喰川の今、公民館まつり、四日市研修、蛍石、etc	
49号	自治会解散、底喰川の大掃除はいつから、学校の役割、架空地線天然記念物北海道犬、3部会の報告 etc	
講演会	カザフスタンの民謡と語り	